

「人工膝関節全置換術後の身体機能の改善と下肢周径との関連」

1. 研究の対象

2024年6月1日～11月30日の期間に当院で手術目的に入院した人工膝関節全置換術（以下、TKA）後の患者18名（40代～80代の男女）

2. 研究の背景・目的・方法・期間

〔背景〕

人工膝関節全置換術（以下：TKA）後患者の身体機能向上は在院日数の短縮に影響を与える要因の一つである。当院ではTKA後患者におけるクリニカルパスの見直しを行い、DPCⅡ期（入院日から18日）での自宅退院を目指す取り組みを開始した。しかし、前年度の当院でのTKA後の平均在院日数は23.5日であり、病院経営の側面から在院日数の短縮と早期のADL改善が求められることとなった。TKA後患者のリハビリテーション（以下、リハビリ）を進めていく上で、術後リハビリが順調に進む患者とそうでない患者に二分化されており、各々の要因については追及できていない状況である。

〔目的〕

簡易かつ定量的に行える評価である下肢周径の測定が予後予測の指標になり得るかどうかを調査する。

〔方法〕

研究対象者に対して、術肢の術前および術後（POD11まで隔日）における大腿最大・膝蓋骨直上・下腿最大周径、膝関節屈曲・伸展可動域（以下、ROM）、膝関節屈曲・伸展筋力を調査。収集したデータを用いて、膝ROM・膝関節筋力について術前値以上に改善した群、改善しなかった群を分けた。さらに術後周径が術前周径まで戻った群と戻らなかった群を分けた。最後に周径と膝ROMおよび膝関節筋力で比較を行った。

〔期間〕

倫理委員会承認後から2025年12月31日

3. 研究に用いる資料・情報の種類

理学療法評価記録より、術前と術後の膝ROM（屈曲・伸展）、膝関節筋力（屈曲・伸展）、下肢周径（大腿最大、膝蓋骨直上、下腿最大）の情報を収集する。診療録より、年齢、性別、入院期間（日数）の情報を収集する。

4. 個人情報の取扱いについて

患者の氏名およびIDを削除し、代わりに新しく符号または番号を付けて仮名化処理を行い、個人を特定できないようにする。また、それらの抽出データは、外部ネットワークと切り離されたパスワードロックのかかるパソコン上に保存する。この研究で得られた情報は研究責任者寺井基子の責任の下、厳重な管理を行い、患者の情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払う。なお、本研究において得られた情報は、院外への発表が行われてから1年保管し、適切に廃棄する。

5. 外部への試料・情報の提供

本研究の結果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表。

研究結果および報告内容に関しては、仮名化し個人情報特定できないよう配慮し、今回の研究目的以外に使用しない。

6. 研究組織

研究責任者

近江八幡市立総合医療センター リハビリテーション技術科 寺井基子

研究担当者

近江八幡市立総合医療センター リハビリテーション技術科 宮崎悠希、前田礼奈、葺沢ゆり菜、山本悠晏

7. お問い合わせについて

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書等の資料を入手・閲覧することが出来ます。

【連絡先】

近江八幡市立総合医療センター リハビリテーション技術科

寺井基子（研究責任者）、宮崎悠希、前田礼奈、葺沢ゆり菜、山本悠晏

〒523-0082 滋賀県近江八幡市土田町 1379 番地

TEL 0748-33-3151